

2. 概 要

2-1 入港船舶の概要

気仙沼港入港船舶前年比較表

内・外航船別		平成20年 (A)	構成比 (%)	平成19年 (B)	増減 (A)-(B)	前年比 (%)
合 計	隻 数	4,776	100.0	4,966	△ 190	96.2
	総トン数	1,398,718	100.0	1,400,424	△ 1,706	99.9
外 航 船	隻 数	1	0.0	3	△ 2	33.3
	総トン数	3,496	0.2	11,528	△ 8,032	30.3
内 航 船	隻 数	4,775	100.0	4,963	△ 188	96.2
	総トン数	1,395,222	99.8	1,388,896	6,326	100.5

平成20年における気仙沼港の入港船舶は、隻数が4,776、総トン数が1,398,718総トンであり、前年と比較して、隻数で190隻（3.8%）減少し、総トン数では1,706総トン（0.1%）減少している。

トン数階級別では、100総トン以上500総トン未満の船型が4,463隻と最も多く、全体の93.4%を占めている。

(1) 外航船

外航船は、隻数で1隻と前年より2隻（66.7%）減少し、総トン数では3,496トンと8,032総トン（69.7%）減少している。

トン数階級別では、3,000総トン以上6,000総トン未満の船型が1隻と最も多く、外航船の100.0%を占めている。

(2) 内航船

内航船は、隻数で4,775隻と前年より188隻（3.8%）減少し、総トン数では1,395,222総トンと6,326総トン（0.5%）増加している。

トン数階級別では、100総トン以上500総トン未満の船型が4,463隻と最も多く、内航船の93.5%を占めている。

2-2 海上出入貨物の概要

気仙沼港海上出入貨物前年比較表

区 分		平成20年 (A)	構成比 (%)	平成19年 (B)	増減 (A)-(B)	前年比 (%)
合 計		821,336	100.0	858,603	△ 37,267	95.7
外貨貨物	輸 出	0	0.0	585	△ 585	0.0
	輸 入	0	0.0	0	0	—
	計	0	0.0	585	△ 585	0.0
内貨貨物	移 出	260,436	31.7	274,127	△ 13,691	95.0
	移 入	560,900	68.3	583,891	△ 22,991	96.1
	計	821,336	100.0	858,018	△ 36,682	95.7

平成20年における気仙沼港の取扱貨物量は821,336トンであり、前年と比較して37,267トン(4.3%)減少している。

そのうち、外貨貨物は0トンで全体の0.0%、内貨貨物は821,336トンで全体の100.0%となっている。

気仙沼港主要取扱貨物前年比較表(81品目)

品 種	平成20年 (A)	構成比 (%)	平成19年 (B)	増減 (A)-(B)	前年比 (%)
合 計	821,336	100.0	858,603	△ 37,267	95.7
999 自航(フェリー)	519,710	63.3	547,690	△ 27,980	94.9
311 重 油	128,176	15.6	143,732	△ 15,556	89.2
321 石 油 製 品	109,290	13.3	124,445	△ 15,155	87.8
211 非 金 属 鉱 物	64,030	7.8	42,151	21,879	151.9
081 水 産 品	130	0.0	503	△ 373	25.8
そ の 他	0	0.0	82	△ 82	0.0

取扱貨物については、自航(フェリー)が取扱貨物量全体の63.3%を占め、前年と比較して27,980トン(5.1%)減少している。

自航を除いた主な品種は、重油、石油製品、非金属鉱物であり、それらで取扱貨物量全体の36.7%を占めている。

(1) 輸 出

気仙沼港主要輸出貨物前年比較表（81品目）

品 種	平成20年 (A)	構成比 (%)	平成19年 (B)	増減 (A)-(B)	前年比 (%)
合 計	0	—	585	△ 585	—
081 水 産 品	0	—	503	△ 503	—
471 その他製造工業品	0	—	82	△ 82	—

輸出は 0 トンで、貨物量全体の 0.0%であり、前年と比較して 585 トン（100.0%）減少している。
品種は、水産品とその他製造工業品である。

(2) 輸 入

気仙沼港主要輸入貨物前年比較表（81品目）

品 種	平成20年 (A)	構成比 (%)	平成19年 (B)	増減 (A)-(B)	前年比 (%)
合 計	0	—	0	0	—

輸入は 0 トンで、貨物量全体の 0.0%であり、前年も同様である。

(3) 移 出

気仙沼港主要移出貨物前年比較表（81品目）

品 種	平成20年 (A)	構成比 (%)	平成19年 (B)	増減 (A)-(B)	前年比 (%)
合 計	260,436	100.0	274,127	△ 13,691	95.0
999 自航（フェリー）	259,920	99.8	273,590	△ 13,670	95.0
311 重 油	516	0.2	0	516	—
そ の 他	—	—	537	△ 537	—

移出は 260,436 トンで、貨物量全体の 31.7%を占めており、前年と比較して 13,691 トン（5.0%）減少している。そのうち、自航（フェリー）が移出全体の 99.8%となっているが、前年と比較して 13,670 トン（5.0%）減少している。

自航を除いた主な品種は重油であり、移出全体の 0.2%を占めている。

(4) 移入

気仙沼港主要移入貨物前年比較表（81品目）

品 種	平成20年 (A)	構成比 (%)	平成19年 (B)	増減 (A)-(B)	前年比 (%)
合 計	560,900	100.0	583,891	△ 22,991	96.1
999 自航 (フェリー)	259,790	46.3	274,100	△ 14,310	94.8
311 重 油	127,660	22.8	143,575	△ 15,915	88.9
321 石 油 製 品	109,290	19.5	124,065	△ 14,775	88.1
211 非 金 属 鉱 物	64,030	11.4	42,151	21,879	151.9
そ の 他	130	—	0	130	—

移入は 560,900 トンで、貨物量全体の 68.3%を占めており、前年と比較して 22,991 トン（3.9%）減少している。

そのうち、自航（フェリー）が移入全体の 46.3%となっており、前年と比較して 14,310 トン（5.2%）減少している。

自航を除いた主な品種は重油、石油製品、非金属鉱物であり、これらで移入全体の 53.7%を占めている。

2-3 施設利用の概要

(1) 入港船舶（500 総トン以上の船舶）

気仙沼港入港船舶公専別前年比較表

区 分 年 別	公共埠頭		専用埠頭		公共埠頭の比率 (%)	
	隻 数	総トン数	隻 数	総トン数	隻 数	総トン数
平成20年 (A)	77	61,293	103	91,406	42.8	40.1
平成19年 (B)	57	56,687	111	98,204	33.9	36.6
増減 (A)-(B)	20	4,606	△ 8	△ 6,798	—	—
前年比 (%)	135.1	108.1	92.8	93.1	—	—

入港船舶（500 総トン以上）の係留状況について、公共・専用別にみると、公共埠頭が 77 隻の利用で全体の 42.8%を占めており、前年と比較して 20 隻（35.1%）増加している。専用埠頭については、103 隻で全体の 57.2%を占めており、前年と比較して 8 隻（7.2%）減少している。

総トン数については、公共埠頭が 61,293 総トンで全体の 40.1%を占めており、前年と比較して 4,606 総トン（8.1%）増加している。また、専用埠頭は 91,406 総トンで全体の 59.9%を占めており、前年と比較して 6,798 総トン（6.9%）減少している。

(2) 海上出入貨物

気仙沼港海上出入貨物公専別前年比較表

区 分 年 別	公共埠頭	専用埠頭	公共埠頭の比率
	(フレート・トン)	(フレート・トン)	(%)
平成20年 (A)	583,870	237,466	71.1
平成19年 (B)	590,426	268,177	68.8
増減 (A)-(B)	△ 6,556	△ 30,711	—
前年比 (%)	98.9	88.5	—

※ 自航（フェリー）を含んだものである。

取扱貨物量について公共・専用別にみると、公共埠頭が 583,870 トンで全体の 71.1%を占めており、前年と比較して 6,556 トン（1.1%）減少している。

また、専用埠頭については 237,466 トンで全体の 28.9%を占めており、前年と比較して 30,711 トン（11.5%）減少している。